

天井画に描かれたサクラソウ

—武蔵野・三富新田に伝えられる木ノ宮地蔵堂の天井画—



◀木ノ宮地蔵堂（三富）天井に描かれたサクラソウ

木ノ宮地蔵堂▼



雑木林の新緑が眩しい4月24日は三富新田に鎮座する木ノ宮地蔵の縁日である。木ノ宮地蔵堂は、武蔵野台地の開拓で知られる三富新田の開拓（元禄7年～9年・1694～96）の際に開拓農民の菩提寺として建立された多福寺の境内に広がる雑木林の一画にある。ふだんは堂宇は閉じられ参詣に来る人もまだらだが、この日は堂宇も開かれ、近郷近在から参詣者が集まり大変な賑いをみせる。縁日の日に、木ノ宮地蔵堂の内陣を覗くと、天井に描かれた植物画を垣間見ることが

できる。そのうちの一枚にサクラソウが描かれている。

サクラソウは西側から2列目の本尊側から3段目の格子天井に描かれている。サクラソウは僅か60センチ角の格子天井の中に3株が描かれている。それぞれの株には1本ずつの花茎が伸びる。中央の前面に描かれた株には花房が6房ありすべて咲き開いている。中央奥の花房には5房咲く、左奥に描かれたものはまだ蕾のみである。3株のいずれもの花は、いずれも淡い桃色に描かれているが、中央奥のサクラソウの花房の

うちの3房には花卉の何枚かは赤色が濃く描かれた花卉にしぼりになっているようにも見える。これは高い天井画であるため十分な観察をしきれていないが、淡い桃色を出すために混ぜた塗彩顔料が、分離して生じたものと判断するのがよさそうである。

地蔵堂内陣の107枚の格子天井にはそれぞれ1種類ずつ植物が描かれている。107枚の植物画は、ダイコン・ナス・ソバ・ペニバナなどの農作物やボタン・ハゲイトウ・キク・テッセン・サギソウなど鑑賞栽培されていたと思われる植物、コブシ・エノコログサ・ツククサ・スミレなどの雑木林の樹木や野草の類までさまざまである。

この植物画の作者は、タンポポの絵の隅にある落款から鈴木本英という人物であることがわかる。この人物については、この地蔵堂に奉納された「鯉の滝登り」

(文化6年・1809)と隣町の大井町神明神社の「三神図」(寛政11年・1799)の絵馬の作者であることと、地元上富の出身という伝承があるに過ぎないが、天井画が描かれたのは地蔵堂の建築された安永6年(1777)とすれば、鈴木本英の若いころの作品と判断される。

鈴木本英の描いた107枚の植物画は「武蔵野の植物の集成か」「身近な本草(薬草)か」など様々な解釈があるが、確かな答はない。鈴木本英の作画した時代は化政文化の時代に当たる。化政文化は江戸の成熟文化の時代と共に、探険・紀行や博物学の隆盛したこともよく知られる。鈴木本英の描いた107枚の植物画の意味は判然とはしないが、博物学的な考えの影響の下に描かれたものであることは間違いない。

三芳町教育委員会生涯学習課 松本富雄

浮間の桜草を訪ねて

浮間ヶ原の桜草圃場は、荒川の沿岸、田島ヶ原より下流域、東京都北区浮間の都立浮間公園内にあり、JR埼京線浮間舟渡駅のすぐそばにあります。毎年春には多くの人々が訪れ賑います。この圃場ができるにあたっては地元の方々のなみなみならない努力によるものなのです。昨年四月浮間さくらそう祭のとき、埼玉さくらそう会の吉岡義雄氏と一緒に浮間ヶ原桜草保存会会長の黒田信男氏のご案内により圃場を見学させていただきました。この日もこの圃場には多くの人々が訪れ、桜草は見事に咲き誇っておりました。

黒田氏からお聞きしたお話、頂いた資料によれば、ここ浮間ヶ原は田島ヶ原と同様、荒川沿岸に多くあった桜草の自生地の一つで、江戸時代の始めのころより知られる所となり、桜草の園芸栽培が盛んになった江戸時代の文化・天保期には桜の名所飛鳥山とならんで、桜草の名所として多くの花見客で賑ったと言われております。この自生地も昭和になり荒川の改修、築堤工事、関東大震災復興時の荒木田土の乱掘等により桜草はしだいに減少してゆき、昭和22年の戸田のポートレース場の建設のための残土埋め立てにより自生の桜草はなくなってしまいました。しかし昭和30年に入って、地元の人々の桜草復活の努力が始まります。昭和36年には北区が地元の人々の熱意を受けて桜草の保存事業を開始。37年には「浮間桜草保存会」が結成され、39年には圃場の一般公開が始まり、その翌年にはさくらそう祭

りが開催されることとなります。その後NHKテレビでの紹介等もあり浮間の桜草圃場は有名になってゆきます。そして平成元年には現在の新圃場が完成します。

このようにして浮間ヶ原の桜草は復活しました。自生地と圃場、現在の土地の性格は異なりますが、田島ヶ原と浮間ヶ原は兄弟どうしと言うべき場所です。黒田会長さんのお話になるかつての浮間ヶ原も田島ヶ原と良く似た土地であったことがうかがわれました。

この春もまた、保存会の方々の心を込めた栽培作業によりこの浮間の地にはみことな桜草が咲くことでしょう。

浦和市教育委員会文化財保護課 高山清司



浮間公園の桜草圃場